

# 学部・学科トレンド データ集

## 連携・融合という社会のトレンドは 志願トレンドにはまだ反映されず、やや時差ありか

編集部 鹿島 梓

経済環境や雇用情勢あるいは政治動向等、社会の様々な要因が受験生の志望分野に作用し、学部・学科の「ライフサイクル」は大きく変化する。本誌では1992年以降その動きを把握し、定期的にマーケットトレンドを俯瞰してきた。今回はグローバル化・第4次産業革命といった大きな社会変化のうねりが、特に複合分野のトレンドに影響を与えつつある状況をお伝えした。今回はその後、コロナ禍のさなかの状況をお伝えしたい。

図表 1 学科の78学問分類と2018-2021トレンド一覧

トレンド： ↗(成長期) →(成熟期) ↘(衰退期) ↙(撤退期) ↖(再成長予兆期)

※成長期は定員増・志願者増、成熟期は定員増・かつ志願者増の幅が5%以内、衰退期は定員増・志願者減、撤退期は定員減・志願者減、再成長予兆期は定員減・志願者増と定義  
※リクルート独自分類

学科系統(大分類)	学科系統(小分類)	トレンド	学科系統(大分類)	学科系統(小分類)	トレンド	学科系統(大分類)	学科系統(小分類)	トレンド
1 文化・地理・歴史	1 地理学	↙	6 生物	27 住居学	↘	11 スポーツ・健康・医療	53 語学(外国語)	↙
	2 歴史学	↘		28 生活科学	↙		54 語学(日本語)	↙
	3 考古学	↘		29 生物学	↙		55 スポーツ学	↘
	4 文化人類学	↙		30 生命科学	↙		56 健康科学	↙
	5 日本文化学	↗		31 農学	↘		57 医学(専門課程)	↙
	6 言語学	↘		32 森林科学・水産学	↘		58 歯学(専門課程)	↙
	7 教養学	↘		33 獣医・畜産学	↙		59 薬学	↘
2 芸術・文学・表現	8 音楽	↖	7 社会・マスコミ	34 社会学	↘	12 工学・建築・技術	60 看護学	↘
	9 美術	↙		35 観光学	↘		61 保健衛生学	↘
	10 デザイン	↖		36 情報学	↗		62 リハビリテーション学	↘
	11 舞台・演劇学	↗		37 図書館情報学	↙		63 医療技術学	↗
	12 日本文学	↙		38 コミュニケーション学	↗		64 機械工学	↙
	13 外国文学	↘		39 マスコミ学	↙		65 航空・船舶・自動車工学	↘
	14 児童文学	—		40 メディア学	↙		66 システム・制御工学	↙
	15 文芸学	↗		41 哲学・宗教学	↙		67 情報工学	↖
3 数学・物理学・化学	16 数学	↙	8 人間・心理・教育・福祉	42 心理学	→	68 通信工学	↖	
	17 物理学	↙		43 人間科学	↘	69 電気工学	↘	
	18 化学	↖		44 教育学	↙	70 電子工学	↙	
4 法律・政治・経済	19 法学	↙	9 地球・環境・エネルギー	45 保育・児童学	↘	71 画像・音響工学	↙	
	20 政治・政策学	↙		46 福祉学	↙	72 建築学	↙	
	21 総合政策学	↙		47 地球・宇宙学	→	73 土木工学	↙	
	22 経済学	↙		48 環境科学	↗	74 環境工学	↖	
	23 経営学	↘		49 エネルギー・資源工学	↙	75 応用物理学	↙	
	24 商学	↙		50 原子力工学	↙	76 応用化学	→	
5 家政・生活	25 栄養・食物学	↘	10 国際・語学	51 国際関係学	↘	77 材料工学	↙	
	26 服飾・被服学	↘		52 国際文化学	↘	78 経営工学	↗	

本調査では、「リクルート入試実態調査」の集計データを基に、2021年時点で国公立大学が設置していた5180学科について、学科名称や教育内容に照らし合わせ、リクルート独自の12の大分類・78の小分類(図表1)に分類した。なお、この78分野に当てはまった3485学科を「単独分野」と定義。また、複数分野が融合して78分野に当てはまらなかった1695学科を「複合分野」と定義している。

特集で見てきたように、社会・産業界の変化と人材育成トレンドの変化、初等中等教育の変化と、高等教育の前後では大きな変化が起こっている。高等教育は社会ニーズに応じたシーズを育て、変化対応力の高い人材を育

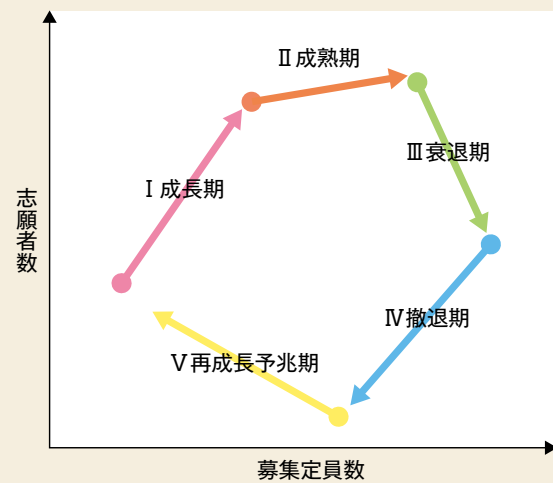
成し、探究軸で学んでくる生徒達の学びを止めず、シームレスな高大接続を継続的に実現する必要がある。ではそうした学びをデザインした場合、ブランド力が高まるのか、志願者数が増えるのか、というのは、短期的な経営テーマとして当然関心の高いところであろう。しかし、今回数値データで見る限りでいうと、志願者数に跳ね返るのはまだこれからという感が否めない。つまり、新しい領域を創ったからといって、必ず集まるというわけではない。そこには立地やポジショニングといった外的要素も影響するほか、大学自身の戦略やドメインに即した独自性、ストーリーが必要になる。そうしたストーリーやビジョンにこれからの可能性を感じれば、受験生や

ステークホルダーの理解は得られ、志願者数に結果が表れてくるであろう。当然効果的な広報や情報伝達ができているかどうかによっても結果は変わる。志願者が増えるかはそうした複合的な要因によるのであって、特定の学科が必ず伸びるといった単純な話ではないことは言うまでもない。また、志願者が継続的に増加するには一定の時間を要するため、社会ニーズが顕在化してから設置までには一定の検討期間があり、かつ、そうしたニーズを反映した学科系統の新規設置が増加してからも、志願者が増加するには一定の期間が生じる。つまり、伸びてくるべき分野がまだそこまで伸びていない。今回の集計ではこうしたギャップが明らかになった。

# 1章：単独分野のマーケットトレンド

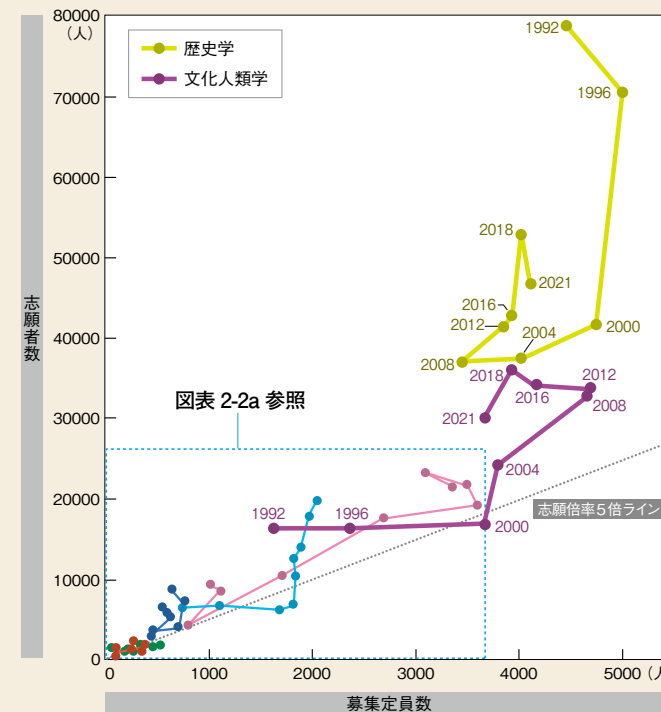
まず単独分野の学科系統から見ていこう。縦軸に志願者数、横軸に募集定員数を置き、図表上の矢印で、ライフサイクルのパターンがどのように変化してきたかを示したのが、学科系統のライフサイクル図である(図表2-2~2-13d)。製品ライフサイクルになぞらえ、I成長期、II成熟期、III衰退期、IV撤退期、V再成長予兆期という、5つの段階があると仮説を立てている。ただし、マーケットの趨勢が必ずしもこの順序になるとは限らず、特に最近では変化が激しく、「成熟前に衰退する」「撤退したまま再成長しない」といったケースも散見される。

図表 2-1 学科系統のライフサイクル図



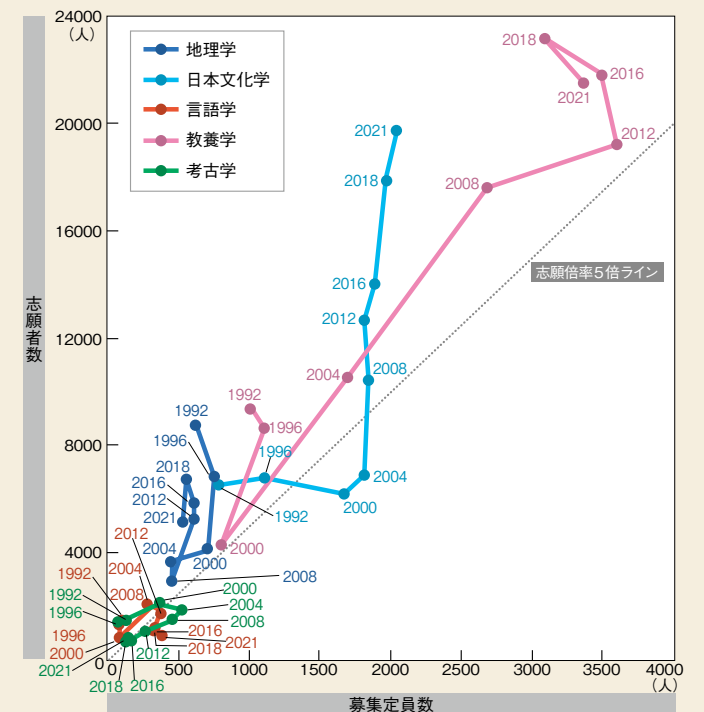
以下の単独分野グラフは全て「志願者数 × 募集定員数の推移(1992、1996、2000、2004、2008、2012、2016、2018、2021)」である。

図表 2-2 文化・地理・歴史系統の動向

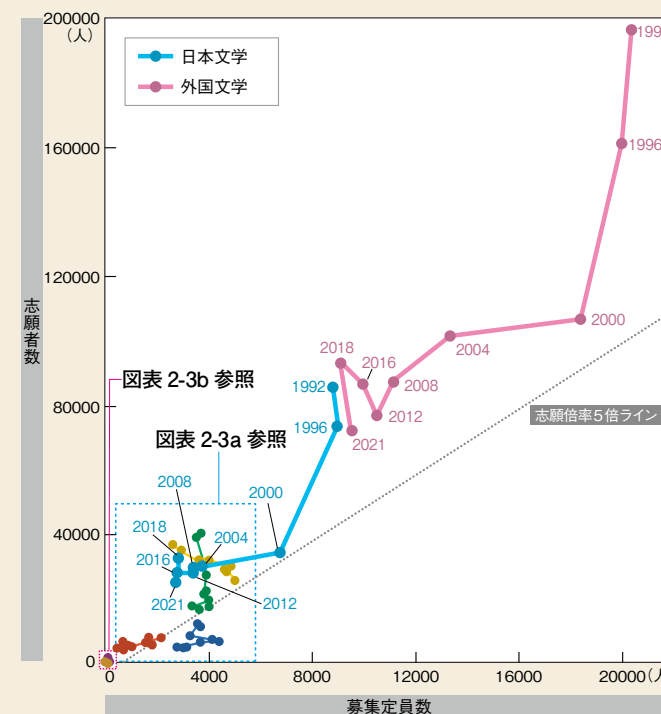


図表 2-2 a 文化・地理・歴史系統の動向

※歴史学、文化人類学を抜いたもの

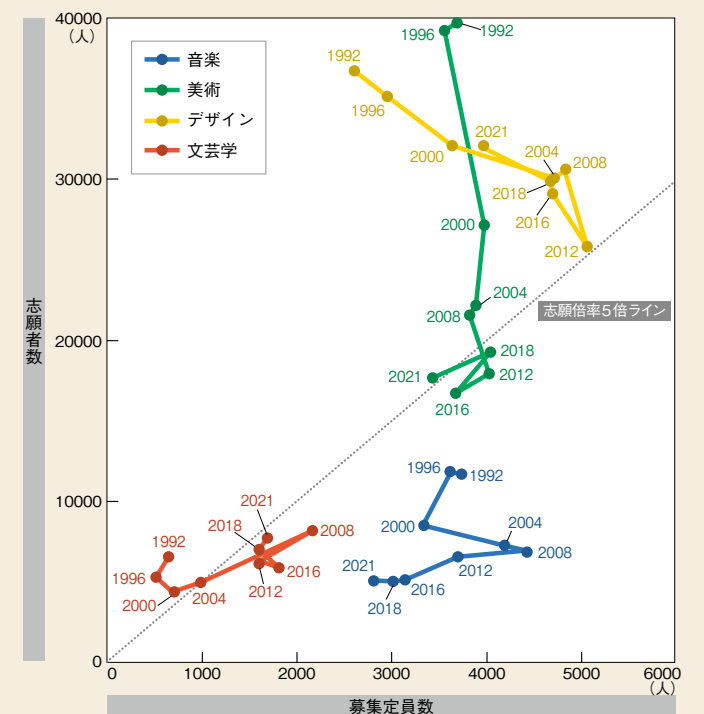


図表 2-3 芸術・文学・表現系統の動向



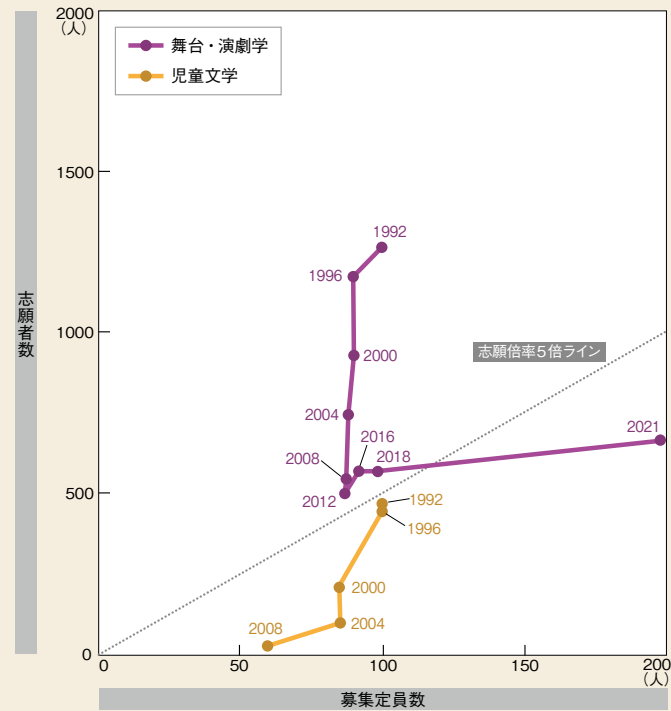
図表 2-3 a 芸術・文学・表現系統の動向

※舞台・演劇学、日本文学、外国文学、児童文学を抜いたもの

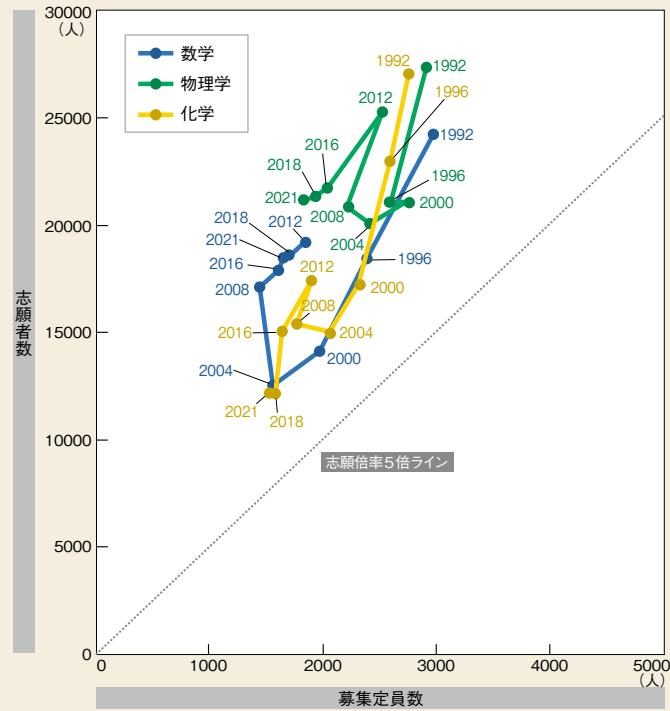


図表 2-3 b 芸術・文学・表現系統の動向

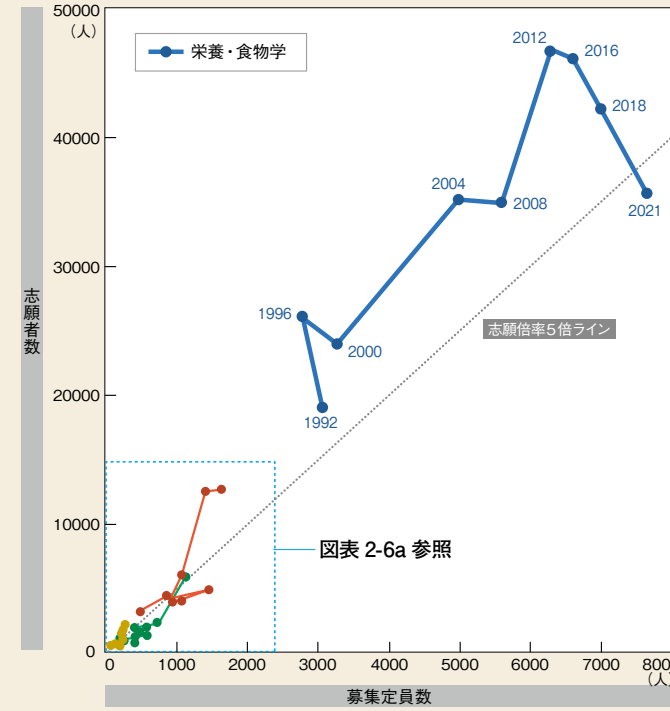
※音楽、美術、デザイン、文芸学、日本文学、外国文学を抜いたもの



図表 2-4 数学・物理学・化学系統の動向

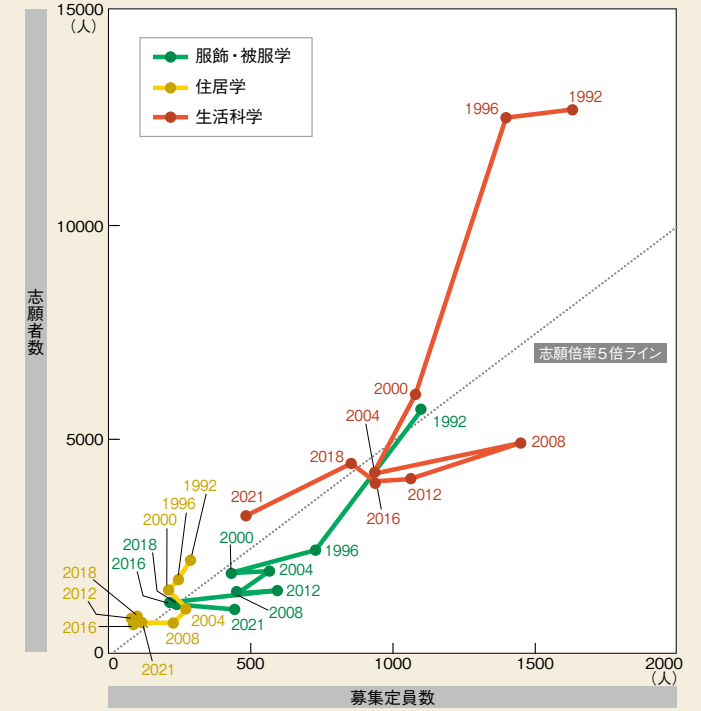


図表 2-6 家政・生活系統の動向

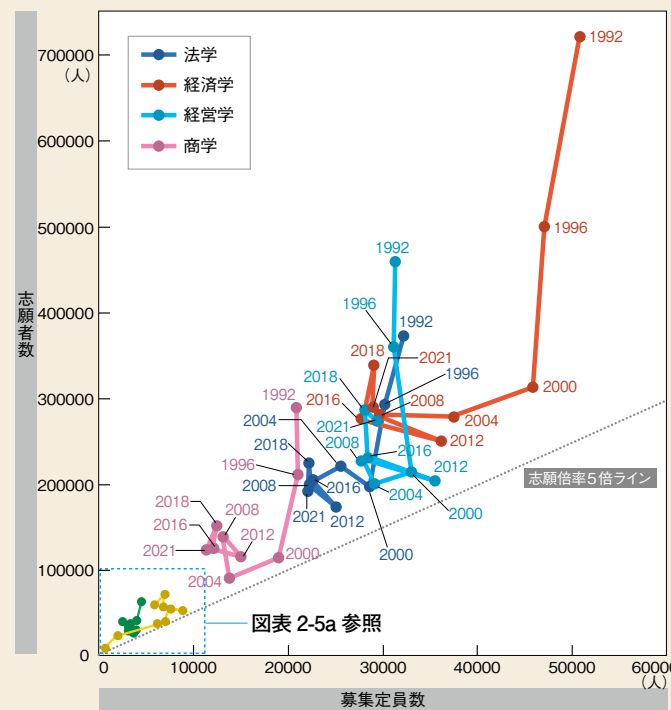


図表 2-6 a 家政・生活系統の動向

※栄養・食物学を抜いたもの

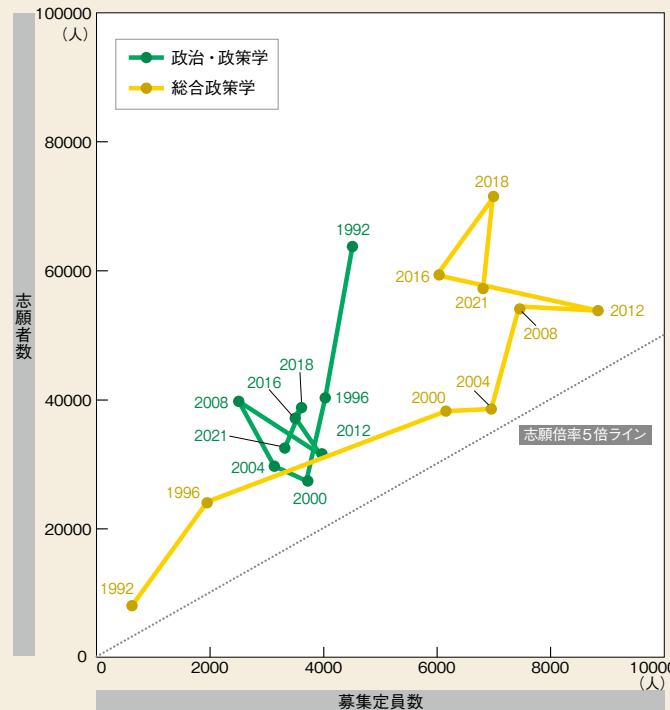


図表 2-5 法律・政治・経済系統の動向

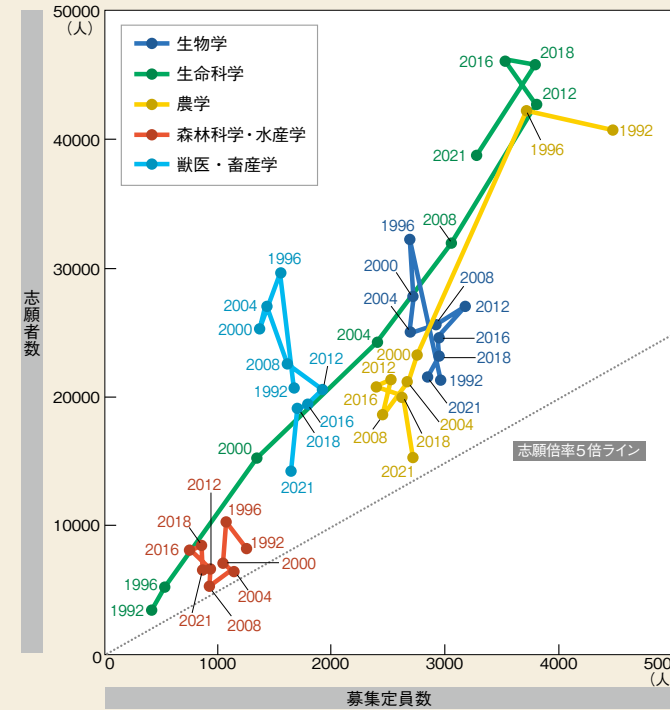


図表 2-5 a 法律・政治・経済系統の動向

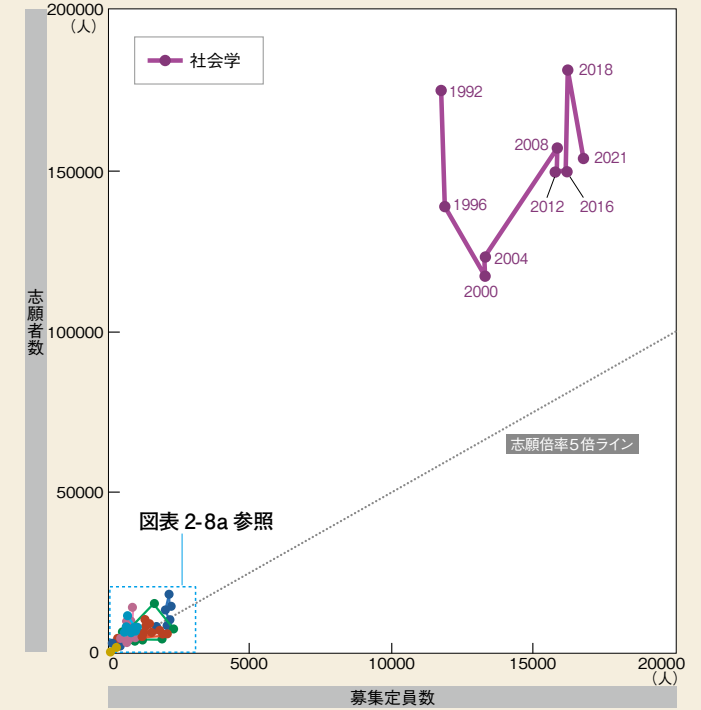
※法学、経済学、経営学、商学を抜いたもの



図表 2-7 生物系統の動向

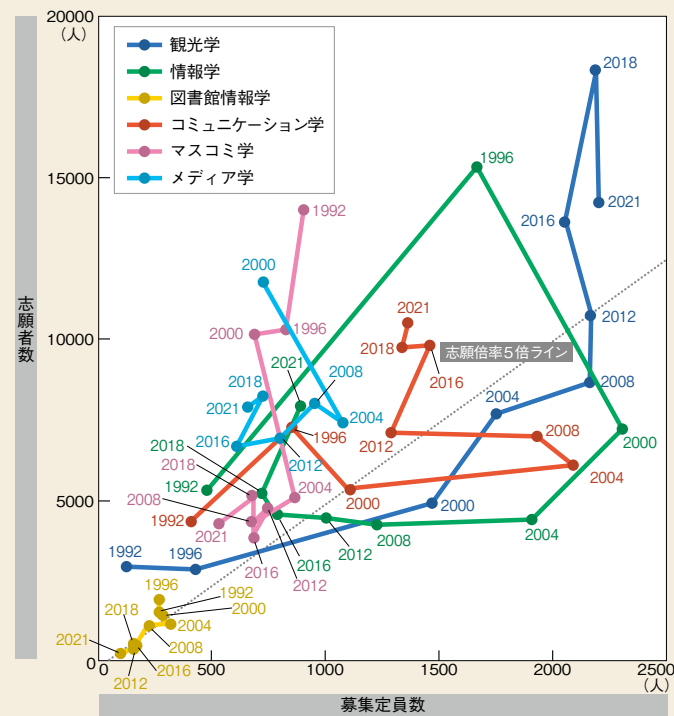


図表 2-8 社会・マスコミ系統の動向

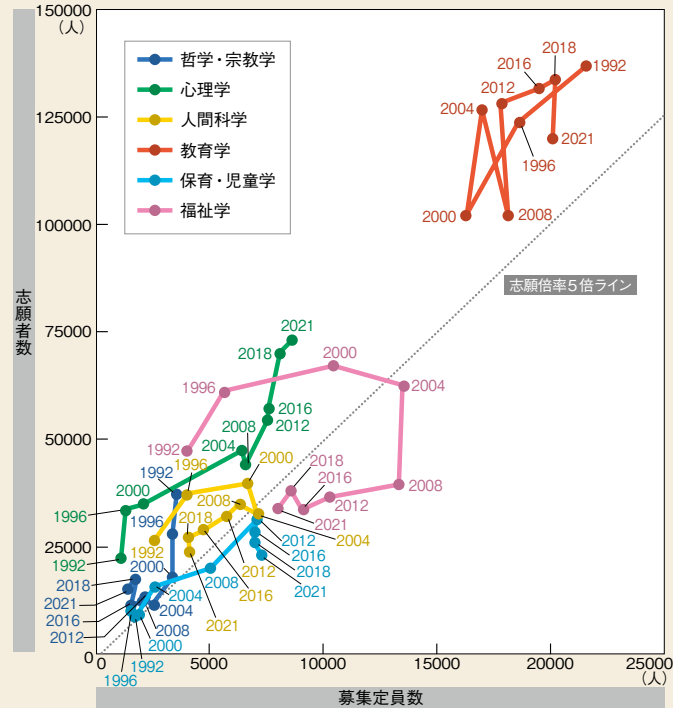


図表 2-8 a 社会・マスコミ系統の動向

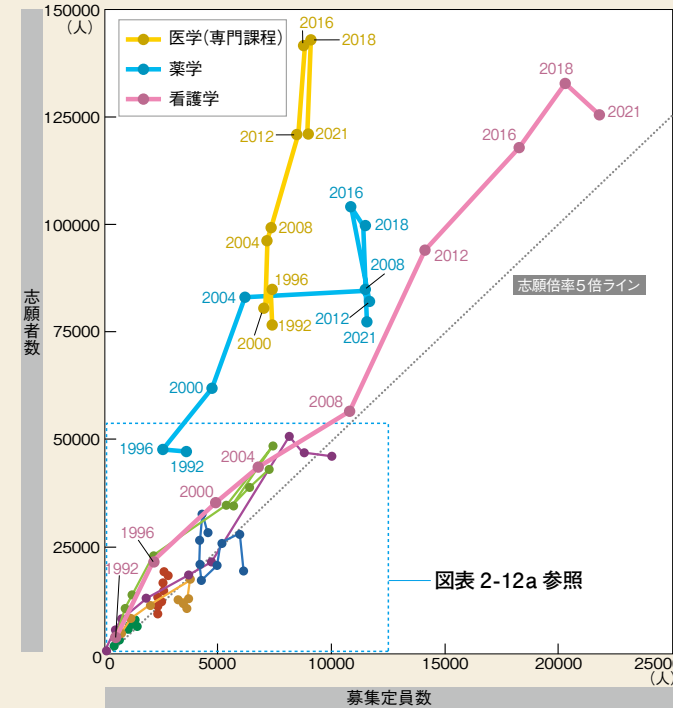
※社会学を抜いたもの



図表 2-9 人間・心理・教育・福祉系統の動向

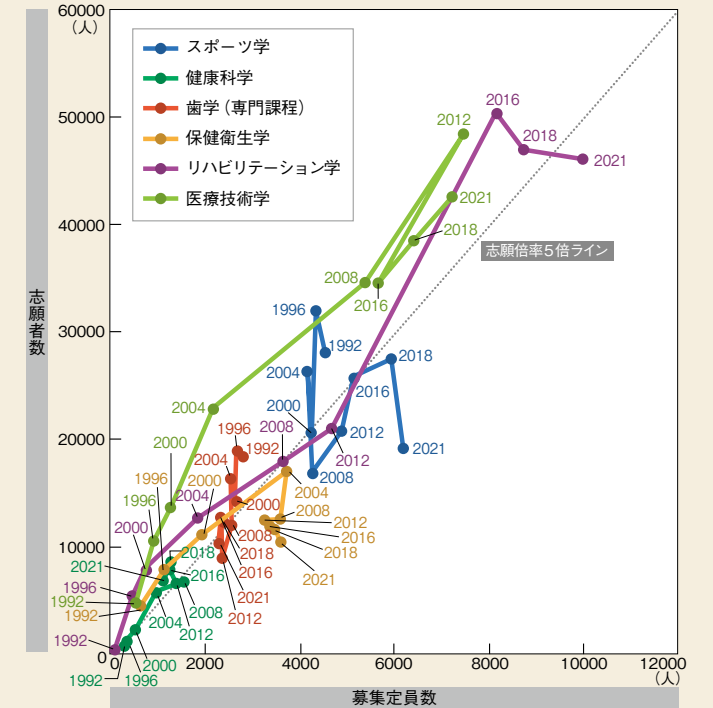


図表 2-12 スポーツ・健康・医療系統の動向

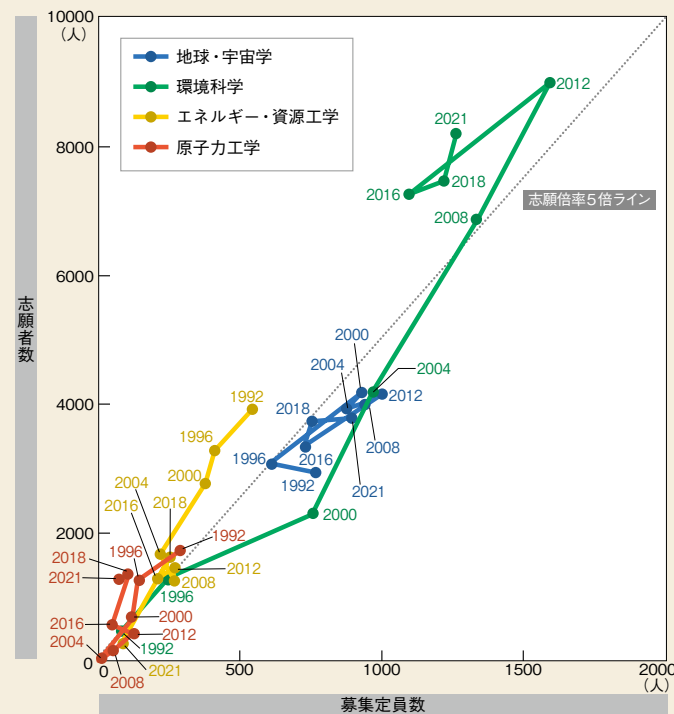


図表 2-12a スポーツ・健康・医療系統の動向

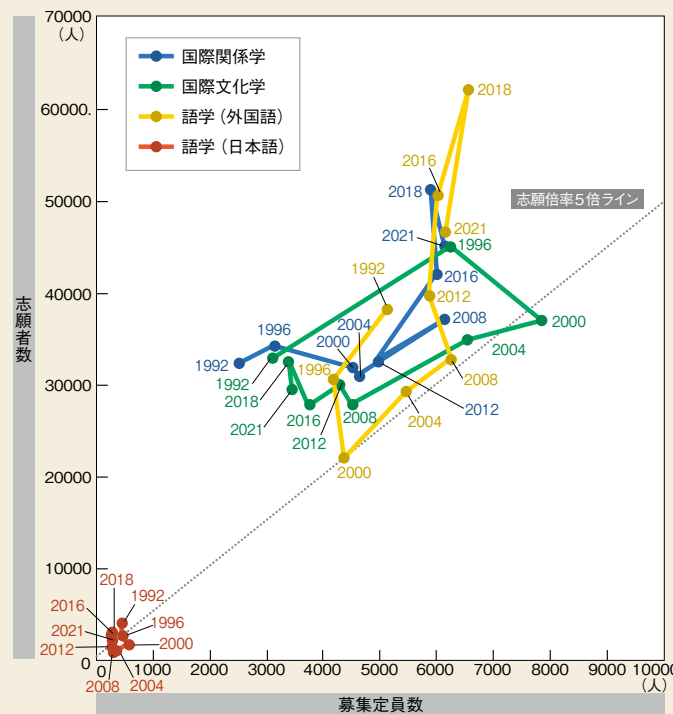
※医学(専門課程)、薬学、看護学を抜いたもの



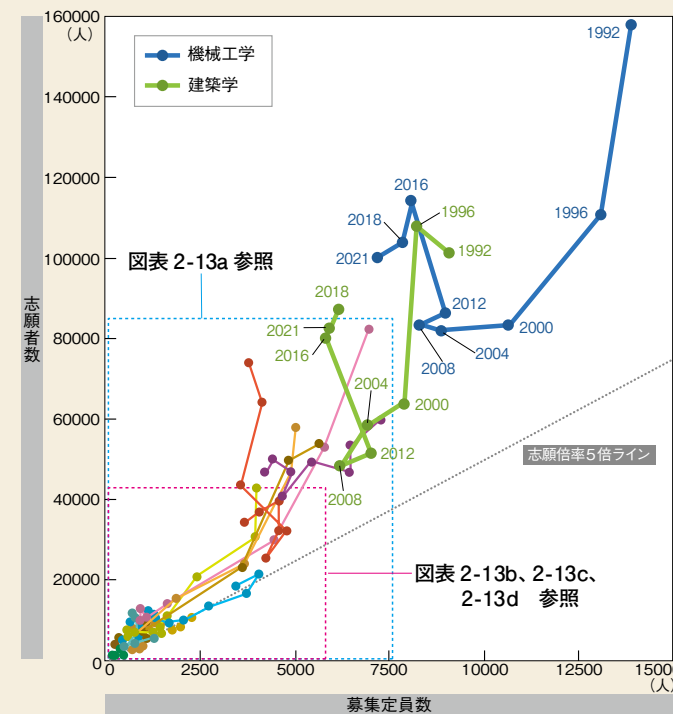
図表 2-10 地球・環境・エネルギー系統の動向



図表 2-11 国際・語学系統の動向

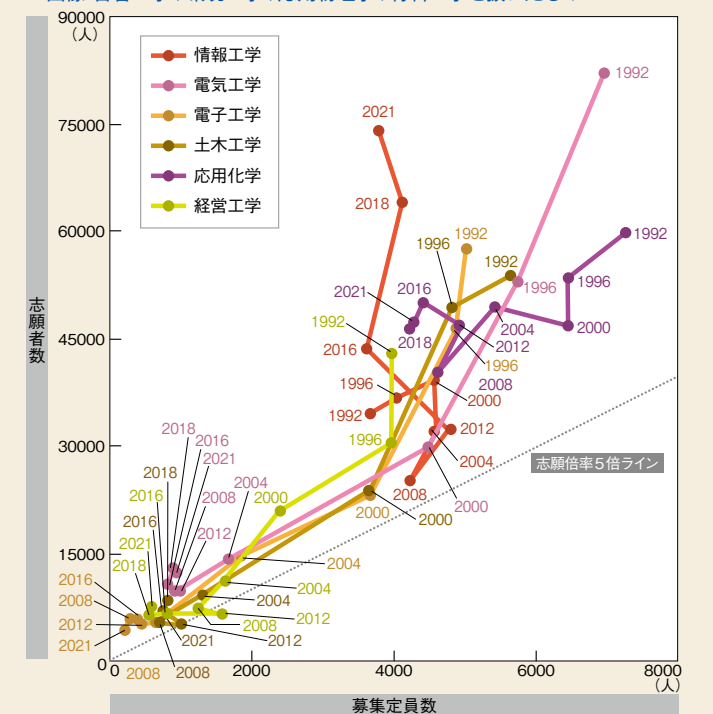


図表 2-13 工学・建築・技術系統の動向



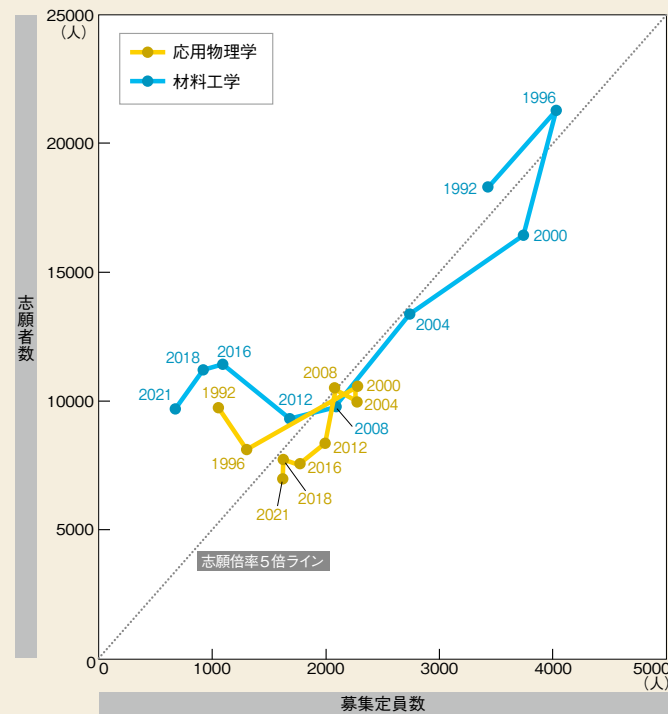
図表 2-13a 工学・建築・技術系統の動向

※機械工学、建築学、航空・船舶・自動車工学、システム・制御工学、通信工学、画像・音響工学、環境工学、応用物理学、材料工学を抜いたもの



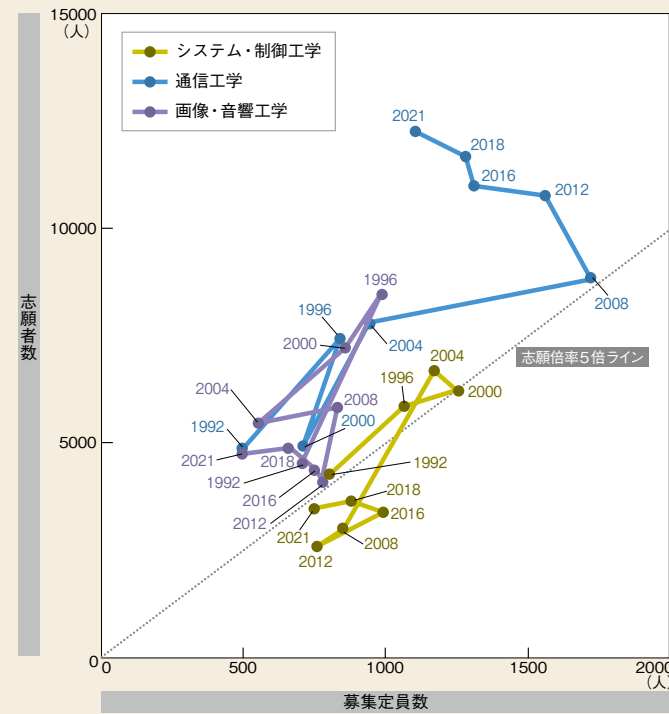
図表 2-13 b 工学・建築・技術系統の動向

※応用物理学、材料工学



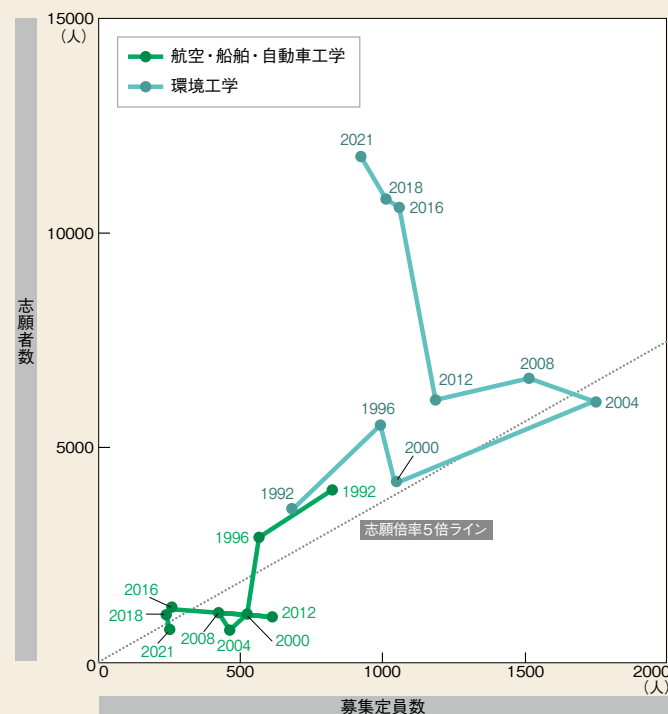
図表 2-13 c 工学・建築・技術系統の動向

※システム・制御工学、通信工学、画像・音響工学



図表 2-13d 工学・建築・技術系統の動向

※航空・船舶・自動車工学、環境工学



学科ライフサイクルはその分野の募集力だけではなく、社会情勢を多分に反映する。単独分野の志願者増減について、期間を区切ってランキングにしたのが図表3だ。対比のため、過去のデータを横に配置した。まず、左側の2008-2012年は、2008-2009年のリーマンショック、2011年の東日本大震災を含む期間で、景況が悪化した時期である。そのため、高校生の進路選択が保守的になり、志願動向は概ね理高文低、就職が堅調な資格系分野が人気となった。中央はその後、アベノミクスによる景気回復により就職状況が改善した2015-2018年である。ここでは社会科学系が人気を盛り返している様子が分かる。そして右側が、今回追加した2019-2021年。該当期間では単独分野での増加が7分野にとどまった。2021年度入試は私大一般選抜が前年比14%減となった年度である(旺文社調べ)。近年は18歳人口の減少傾向にも拘わらず、併願割引、入試方式の多様化等により、延べ志願者数は増加の一途を辿っていた。その可否をここで論じるものではないが、併願増を後押しした大規模校の定員厳格化

図表 3 単独分野の志願者増減ランキング

増加			<全国> ※国公私 ALL					
2008年—2012年			2015年—2018年			2019年—2021年		
順位	学科系統(小分類)名称	増加(人)	順位	学科系統(小分類)名称	増加(人)	順位	学科系統(小分類)名称	増加(人)
1	看護学	37,532	1	経済学	90,298	1	情報工学	5,596
2	教育学	26,118	2	経営学	67,173	2	医療技術学	2,837
3	医学(専門課程)	22,079	3	法学	50,937	3	数学	287
4	医療技術学	13,827	4	商学	49,225	4	地球・宇宙学	268
5	栄養・食物学	11,709	5	社会学	37,872	5	デザイン	194
6	保育・児童学	11,367	6	看護学	22,281	6	電気工学	143
7	生命科学	10,886	7	情報工学	21,375	7	舞台・演劇学	128
8	心理学	10,766	8	心理学	21,216	8	音楽	-13
9	情報工学	7,021	9	国際関係学	18,626	9	服飾・被服学	-73
10	語学(外国語)	6,814	10	総合政策学	15,950	10	住居学	-103
11	応用化学	6,164	11	建築学	13,507	11	経営工学	-122
12	歴史学	4,739	12	語学(外国語)	11,643	12	環境科学	-125
13	物理学	4,439	13	歴史学	11,173	13	考古学	-149
14	スポーツ学	3,694	14	政治・政策学	8,119	14	言語学	-177
15	リハビリテーション学	2,897	15	外国文学	7,300	15	原子力工学	-187
16	建築学	2,842	16	スポーツ学	5,692	16	マスコミ学	-219
17	農学	2,646	17	文化人類学	5,626	17	図書館情報学	-278
18	機械工学	2,539	18	観光学	5,523	18	通信工学	-341
19	地理学	2,295	19	日本文化学	5,420	19	システム・制御工学	-436
20	日本文化学	2,182	20	哲学・宗教学	5,204	20	航空・船舶・自動車工学	-481

減少			<全国> ※国公私 ALL					
2008年—2012年			2015年—2018年			2019年—2021年		
順位	学科系統(小分類)名称	減少(人)	順位	学科系統(小分類)名称	減少(人)	順位	学科系統(小分類)名称	減少(人)
1	経済学	-30,261	1	薬学	-14,246	1	経済学	-60,668
2	法学	-26,132	2	機械工学	-11,093	2	経営学	-52,750
3	経営学	-24,782	3	栄養・食物学	-6,595	3	法学	-50,605
4	商学	-24,163	4	保育・児童学	-3,749	4	商学	-34,982
5	外国文学	-10,137	5	化学	-3,154	5	社会学	-25,703
6	政治・政策学	-7,717	6	リハビリテーション学	-2,876	6	外国文学	-24,421
7	社会学	-7,518	7	農学	-2,717	7	教育学	-23,029
8	国際関係学	-4,650	8	経営工学	-2,496	8	語学(外国語)	-18,714
9	デザイン	-4,643	9	生物学	-2,434	9	医学(専門課程)	-15,359
10	美術	-3,776	10	物理学	-2,281	10	薬学	-15,145
11	歯学(専門課程)	-3,116	11	応用物理学	-1,400	11	国際関係学	-14,193
12	福祉学	-3,038	12	応用化学	-1,180	12	心理学	-11,046
13	薬学	-2,916	13	環境科学	-1,146	13	歴史学	-10,727
14	人間科学	-2,411	14	歯学(専門課程)	-995	14	機械工学	-9,963
15	応用物理学	-2,087	15	生活科学	-731	15	福祉学	-9,786
16	獣医・畜産学	-2,079	16	獣医・畜産学	-729	16	総合政策学	-9,013
17	文芸学	-1,802	17	保健衛生学	-304	17	政治・政策学	-8,916
18	画像・音響工学	-1,651	18	航空・船舶・自動車工学	-300	18	日本文学	-8,034
19	日本文学	-1,374	19	地球・宇宙学	-147	19	観光学	-7,950
20	メディア学	-1,044	20	服飾・被服学	-54	20	看護学	-7,313

政策の存在も見逃せない。2020年には、入試改革を控えた受験生が翌年浪人しないために身の丈に合う志望に絞ったさらなる安全志向となり、志願者総数は14年ぶりに減少した。こうした状況に新型コロナが直撃した。コロナ禍において受験生は地元回帰志向が高まり、結果大都市圏の大学が敬遠され、併願校数も減少する等、堅

実な動きが目立つ。こうした「全体的な志願状況の悪化」に加え、当然景況悪化の影響もあろう。しかし、伸びている分野の1位が「情報工学」であるのは、奇しくもコロナ禍で明らかになったデータサイエンスやデータリテラシーの必要性に受験生が反応している様子にも見える。翻って減少のランキングを見ると、

当然増加ランキングと真逆のことが起こる。理系や資格系が人気の不況時期にあっては社会科学系が不人気であり、好況時期はその逆となる。学部学科の新増設等で志願者を増加させたい際は、大学独自の事情のほかに、こうした全体情勢をよく見極める必要があるだろう。

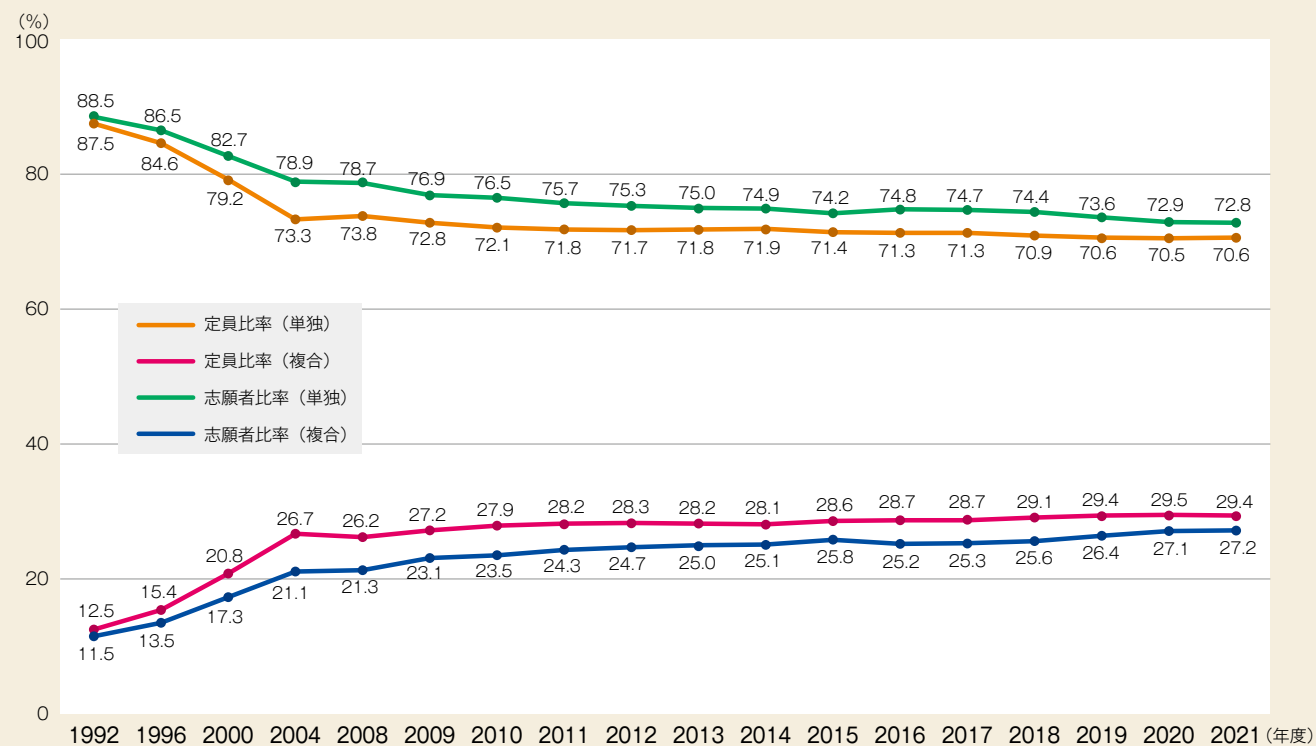
## 2章：複合分野のマーケットトレンド

単分野と複合分野の比率を図表4に示した。近年大幅な変化はなく、概ね募集定員比率でも志願者比率でも7:3程度の割合で推移している。本来であれば複合分野が増加傾向にあるの

が妥当に思われるが、冒頭にあげた時差に加え、実際は新たに社会ニーズと目されるテーマでも既存の単分野の中で既に展開されているものも多く（例えば、ロボティクス分野は機械工学

の中で展開しているものが多数を占めるのが現状であり、複合的な学科設置の流れはあまり見受けられない、新しく見える学問が必ずしも全て複合分野というわけではない実態が窺える。

図表4 単独・複合分野の定員・志願者 構成比



図表5 複合分野の志願者増加ランキング

順位	2008年—2012年						2012年設置数	2008-2012 新增設置数	
	A分野	B分野	C分野	D分野	E分野	増加(人)			
1	スポーツ学	健康科学					11,156	29	19
2	社会学	コミュニケーション学	マスコミ学	メディア学			10,621	1	1
3	教育学	保育・児童学					7,479	41	22
4	建築学	環境工学					6,484	12	1
5	電気工学	電子工学	情報工学				5,799	10	1
6	電気工学	電子工学					5,011	46	8
7	社会学	国際関係学					4,548	7	3
8	数学	物理学					4,484	18	0
9	栄養・食物学	健康科学					3,753	34	12
10	経済学	経営学					3,468	18	5

※志願者数増加上位20学科系統 ※志願者数減少上位20学科系統 ※新設学科数=国公私

順位	2015年—2018年							2018年設置数	2015-2018 新增設置数	
	A分野	B分野	C分野	D分野	E分野	F分野	G分野			増加(人)
1	日本文学	外国文学						9,018	11	1
2	システム・制御工学	情報工学	通信工学					6,679	5	4
3	情報学	情報工学						6,671	36	5
4	経営学	情報学						5,987	20	3
5	電気工学	電子工学						5,927	40	3
6	社会学	コミュニケーション学	マスコミ学	メディア学				5,798	4	0
7	システム・制御工学	情報工学	画像・音響工学					5,208	1	1
8	デザイン	経営学	コミュニケーション学	システム・制御工学	情報工学	通信工学	画像・音響工学	5,047	1	1
9	経済学	経営学						4,943	22	3
10	総合政策学	社会学						3,790	1	0

※志願者数増加上位20学科系統 ※新設学科数=国公私

順位	2019年—2021年								2021年設置数	2019-2021 新增設置数	
	A分野	B分野	C分野	D分野	E分野	F分野	G分野	H分野			増加(人)
1	環境科学	エネルギー・資源学	機械工学	電気工学					3,832	2	1
2	数学	経済学	経営学	商学	情報工学				2,534	6	4
3	情報工学	電気工学	電子工学						2,429	15	0
4	化学	応用物理学							2,310	1	0
5	通信工学	電気工学	電子工学						2,215	3	0
6	システム・制御工学	電子工学							2,131	5	0
7	化学	生物学	生命科学	環境科学					2,024	1	0
8	地球・宇宙学	エネルギー・資源学	航空・船舶・自動車工学	環境工学	材料工学				2,002	1	0
9	情報工学	通信工学	電子工学						1,975	3	0
10	システム・制御工学	情報工学	通信工学						1,888	5	1

※志願者数増加上位7学科系統 ※志願者数減少上位20学科系統 ※新設学科数=国公私

1章で単独分野の志願者数動向を見たように、複合分野についても図表5にトレンドを示している。

まず、2008-2012年は、1位スポーツ学×健康科学、2位社会学×コミュニケーション学×マスコミ学×メディア学、3位教育学×保育・児童学

と、いずれも関連分野での複合化が進んだ時期である。また、上位3位の分野はいずれも半数以上が新增設による新規設置であり、新設学科がマーケットを牽引した様子が分かる。

2015-2018年は逆に、新增設の比率が低い。既存の学科として存在していたものが、時代のニーズ変化に呼応して注目されたと言える。「情報」という名称が急に増加していることも注目される。そして、2019-2021年

である。この時期の特徴として、特にエンジニアリングの分野で、技術革新を受けての動きと見られる分野の多さが挙げられよう。上位10位の中で、電子工学・情報工学は4つ、電気工学・通信工学は3つの領域で複合していることから、テクノロジーの進化に応じた学問領域に注目が集まっている様子が分かる。また、引き続き新增設が牽引していないことも注目だ。2015年以降の動きとして、既存分野における複合的な展開により志願者が大きく動いていると言える。こうした分野を持っていないながら募集が不

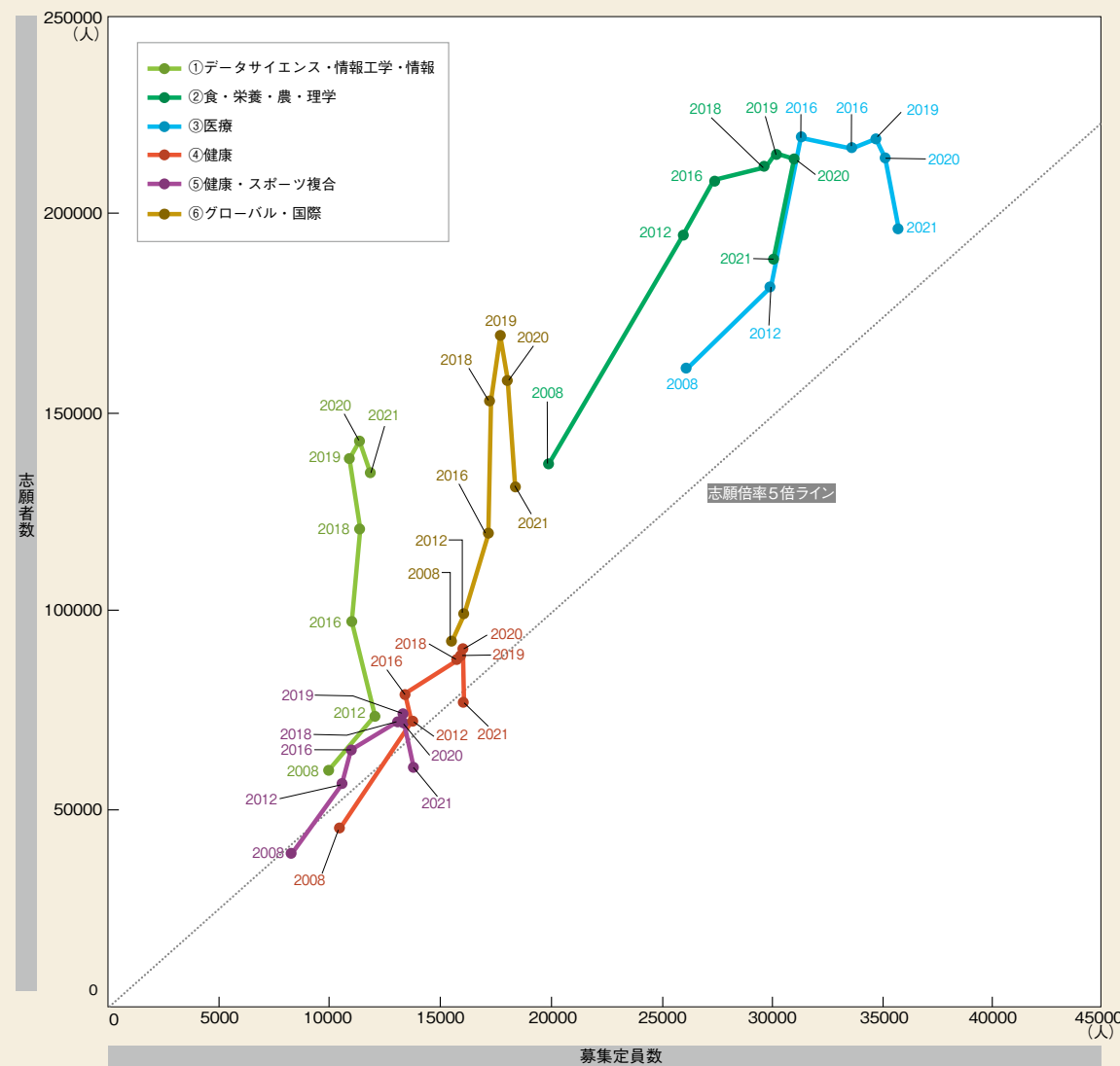
調な場合は、学科の学びが時代に応じた展開になっているか、広報は受験生の志向に応じてアップデートされているか等を確認する必要があるだろう。

図表6は、昨今の社会情勢を背景に設置検討が多い複合トレンドを「メガトレンド」としてピックアップしたグラフである。①データサイエンス、⑥グローバルのように、グラフの縦方向(志願者)の増加は大きい横方向(定員)の増加が少ない領域は、設置状況に対して志願者数が多く集まっており、新規設置に伴って志願者が集まる

可能性を有していると言える。ただし、近年の新增設状況では同じ分野でも志願倍率3倍～20倍程度と開きがあり、実際に集まるかどうかは個別事情によるところが大きい。また、コロナ禍の2年間で志願者推移には陰りが見られ、この状況がいつまで続くかは今のところ未知数だ。また、⑥グローバルは現状この系統の学部・学科を新たに設置するよりも、既存の学部・学科の教育内容をグローバルにしていく動きのほうがかつ盛んであり、系統で切り取った志願者トレンドだけで状況を考察することは難しい。

図表6 メガトレンド分野の学科サイクル

■志願者数×募集定員数 推移(2008、2012、2016、2018、2019、2020、2021)



※①は単独分野「情報工学」「情報学」、同学科系統の複合分野及び「データサイエンス」を冠する学科を全件ピックアップしたうえで目検精査  
 ※②は単独分野「栄養・食物学」「生命科学」「農学」、同学科系統の複合分野を全件ピックアップしたうえで目検精査  
 ※③は単独分野「保健衛生学」「医療技術学」「リハビリテーション学」、同学科系統の複合分野を全件ピックアップしたうえで目検精査  
 ※④は単独分野「健康科学」、同学科系統の複合分野を全件ピックアップしたうえで目検精査  
 ※⑤は単独分野「健康科学」「スポーツ学」、同学科系統の複合分野を全件ピックアップしたうえで目検精査  
 ※⑥は単独分野「国際関係学」「国際文化学」、同学科系統の複合分野及び「国際」「グローバル」を冠する学科を全件ピックアップしたうえで目検精査

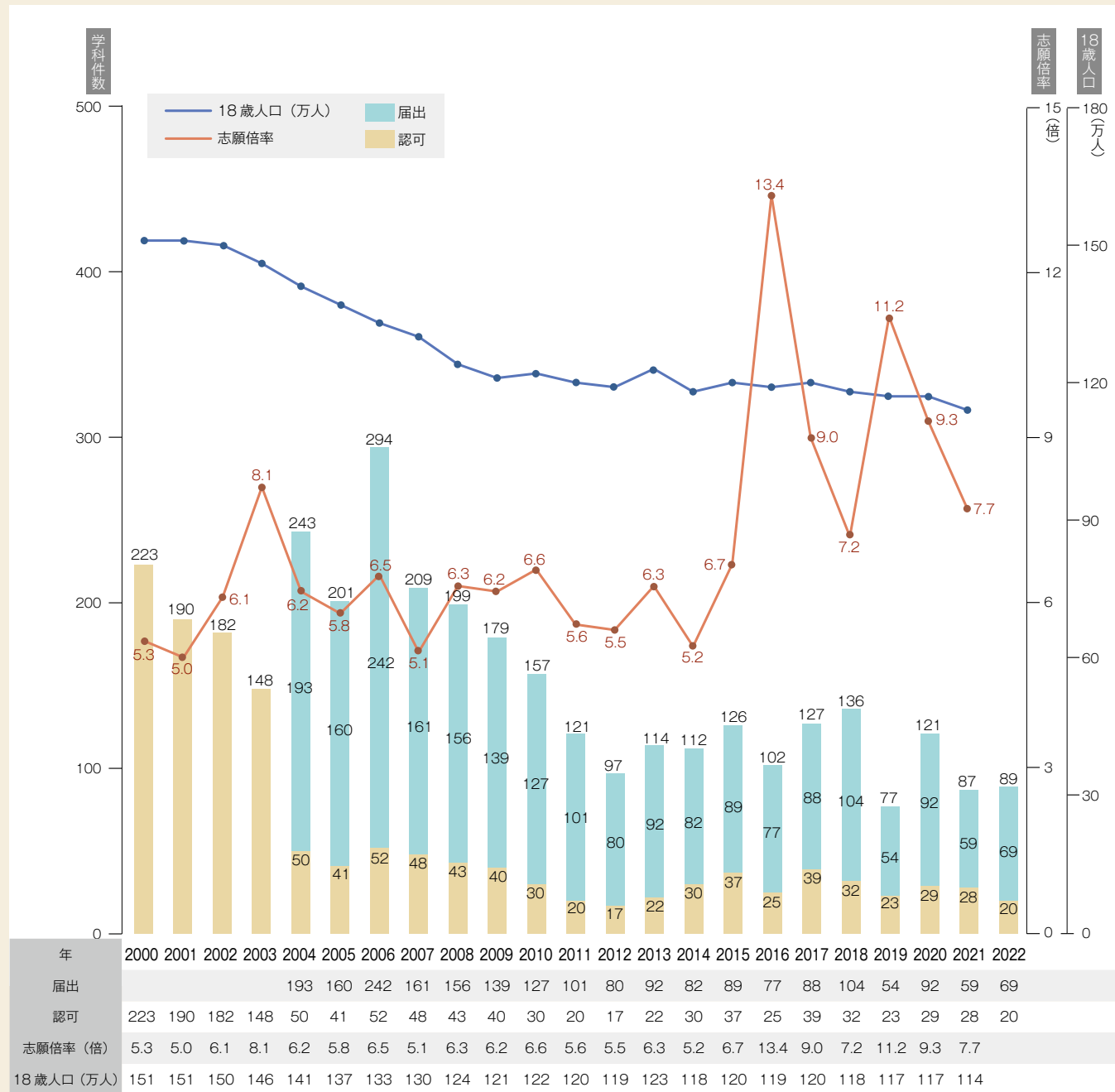
### 3章：新增設のマーケットトレンド

最後に、新增設・改組のマーケットについて見ていきたい。図表7は、2000年以降の認可・届出件数と志願倍率の推移を示している。周知の通り、2004年の届出制導入により認可・届出件数は増加し、全体の8割を届出が占める。届出制は認可申請に比べて申請負担が低いことから、学部・学科の新陳代謝を促進した一方で、昨今の大学設置分科会からは「準備不足や安易な申請が目立つ」といった指摘もある。2016年度開設分からは審査スケジュールが従来よりも前倒しになり、2018年度には専門職大学・短期大学制度も始まったが、その認可率の低さから厳格化モードが一層強まった。コロナ禍と入試改革による影響が同時に表面化した2021・2022年度は申

請数も低水準であり、大きな改革を動かすには難局であったことが窺える。折れ線で示した志願倍率を見ると、大きく上昇する年は大規模校の新增設に伴うもので、下降する年も個別の理由があるが、概ね5.0～10.0倍の幅で推移しており、受験生は新しい学部・学科を好意的に見ているようである。次に、人気のある分野について見ておきたい。図表8・9は、単独分野・複合分野それぞれにおいて、新增設の累計設置数(2008-2021)を多い順にランキングにしたものである。単独分野では医療系が上位3位を占める。長らく看護学が他を圧倒する設置数だったが、高齢化に伴う健康寿命への注目の高まりも背景に、ここ3年で

ハビリテーション学が急増している。4位以下の学科系統では毎年の設置数が2桁に届く分野がないことから、医療系の人気と追随する大学の多さが見て取れる。複合分野を見ると、1位教育学×保育・児童学、2位スポーツ学×健康科学、3位栄養・食物学×健康科学と、隣接分野での改組が目立つ。また、前述した高齢化を背景に多様化する健康科学、テクノロジーの進化に伴い人材ニーズが高い情報関連分野、ロボティクスやモビリティ等を包含するシステム・制御工学といったトレンド分野も散見される。こうした分野は今後も志願ニーズが高い状態が続くことが予想される。

図表7 私立大学 新增設の概況



※1 18歳人口は文部科学省 学校基本調査より  
 ※2 新增設件数は1991-2000は(財)文教協会 全国大学一覧・全国短期大学高等専門学校一覧を基に編集部集計。2001-2014は文部科学省集計。件数は、設置組織数ベース  
 ※3 新增設学科の志願倍率は「リクルート入試実態調査」を基に、大学新設、学部・学科改編による新学科の志願倍率を集計

図表8 単独分野の新增設・合計設置数ランキング (2008-2021年)

順位	学科系統 (小) 名称	設置数														設置数合計	平均倍率		
		2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021		2008-2021	2008-2012	2015-2018
1	看護学	9	11	11	8	8	8	16	16	6	12	13	9	5	4	136	6.7	7.2	6.7
2	リハビリテーション学	9	6	4	12	4	7	1	9	5	6	6	20	11	12	112	4.7	6.0	5.2
3	医療技術学	8	6	13	5	7	11	6	2	6	7	4	3	8	5	91	6.2	6.3	6.2
4	経営学	9	7	1	6	4	4	7	3	4	4	3	6	6	4	68	6.9	8.9	10.9
5	心理学	6	8	5	2	5	2	6	4	3	5	9	3	7	1	66	6.8	7.7	9.7
6	教育学	4	5	2	2	2	2	4	4	7	5	3	5	1	1	47	11.6	11.6	10.8
7	保育・児童学	7	7	8	4	2	1	3	4	-	3	3	1	2	1	46	4.3	4.0	3.8
8	栄養・食物学	5	-	5	3	3	-	3	2	3	3	3	1	7	1	39	7.0	6.8	5.1
9	語学 (外国語)	5	2	2	2	2	2	4	-	1	2	5	-	3	-	30	6.4	9.5	10.1
10	福祉学	8	1	3	2	3	2	1	2	2	-	-	-	3	2	29	3.1	3.9	4.7

※志願倍率は公表のみ集計 ※リクルート入試実態調査より、私大のみ

図表9 複合分野の新增設・合計設置数ランキング (2008-2021年)

順位	A分野	B分野	C分野	設置数																	設置数合計	平均倍率		
				2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2008-2021	2008-2012	2015-2018		2019-2021		
1	教育学	保育・児童学		7	4	4	4	3	2	3	-	1	2	4	1	3	-	38	5.1	4.4	3.6			
2	スポーツ学	健康科学		7	2	2	4	4	-	1	2	-	4	2	-	2	1	31	7.3	7.1	6.3			
3	栄養・食物学	健康科学		5	4	3	2	-	2	2	2	1	2	-	2	2	-	27	3.9	5.1	4.3			
4	情報学	情報工学		-	4	2	-	2	1	1	-	2	2	1	-	3	1	19	8.5	10.1	12.3			
5	機械工学	システム・制御工学		4	2	1	1	1	1	-	-	2	-	3	1	1	1	18	4.7	6.9	8.7			
6	電気工学	電子工学		5	-	1	-	2	1	1	1	1	-	1	-	1	1	15	6.3	10.1	14.3			
7	数学	物理学		1	4	-	-	1	-	1	1	1	1	2	-	-	1	13	9.6	10.5	11.0			
	経営学	観光学		2	4	1	-	1	3	-	1	1	-	-	-	-	-	13	3.3	3.2	4.7			
10	システム・制御工学	情報工学		3	1	1	-	2	1	-	-	1	1	1	1	1	-	13	4.5	8.4	12.1			
	経済学	経営学		-	4	-	-	1	3	1	-	1	-	2	-	-	-	12	5.5	5.2	6.3			

※志願倍率は公表のみ集計 ※リクルート入試実態調査より、私大のみ